

フリーダイヤルの相談電話が鳴った。「あのう、交通事故で怪我したんやけど、休んだる間の給料はどなんなるんな」「仕事ですか、それとも休日の事故ですか」「朝、自転車で会社へ行っきよる途中、車とぶつかったんや」その後、相談者から災害発生状況、怪我の程度、休業期間等詳細を聞き、自賠責保険の概要、労災保険制度の概要と予想される労災給付について説明し、労働基準監督署へ提出する必要書類と相談窓口を紹介し、一件落着となりました。

私も財団法人労災保険情報センター香川事務所（通称RIC）は平成3年4月高松市に開設されました。本部は東京にあり、全国各都道府県に地方事務所を持っており、香川では8名の職員が業務に従事しています。厚生労働省から委託を受け

た労災診療費にかかる審査点検業務の他、わが財団が実施する労災指定医療機関に対する毎月の診療費の貸付（立替払）業務が主たる業務ですが、一般市民を対象とした労災インフォメーションプラザといった出張相談会や、医療機関むけの労災診療費算定の実務研修会といった公益性の強い行事を開催するほか、労災保険に関する出版物も多数あり、業界団体や各種講習会のテキストとして幅広く活用されています。また、労災医療のみならず、最近では冒頭に紹介した「労災保険に関する相談」も多く寄せられています。

相談内容も時宜をえたものも数多くあり、アスベストの労災認定、過労死の認定に関するもの、他、メンタルヘルスに端を発した職場のいじめや人間関係の愚痴を聞かされることもあり、回答に苦慮する場面に遭遇することもあります。

業務の性質上、デスク

ワーク、とりわけVDT作業が多く、視力障害をはじめとした関連する疾病予防には神経を使っています。また、メンタルヘルスの観点から、職場の人間関係やコミュニケーションがうまくとれているかどうかといったことには絶えず注意しています。

しかし、どちらかというところ、職員の意識としては、自らの労働環境に神経を使うことよりは、多くの相談者に対し、親切で適切な対応が出来るかといったことのほうに気をとられており、知識の習得をはじめとした職員のスキルアップに努め、労働行政と共に地域の人たちから信頼される事務所になりたいと考えています。

本誌をご愛読の皆様方のご利用とご支援をお願い申し上げます。

財団法人

労災保険情報センター

香川事務所

所長 坂 昭男